

平成20年度林業試験研究課題の概要

区分	研究課題名	概 要	担当
国	(造林)新規 高性能林業機械を活用 した低コスト作業シス テムの確立 (H20 ~ H21)	間伐促進のために、平成 18 年度に本県で初めて高性能 林業機械が導入された。今後、伐採現場における機械の 稼働状況を調査し、本県の地形条件等にマッチした機械 の組み合わせや現場作業の効率化、低コスト化を検討の うえ、高性能林業機械を活用した低コスト作業システム をまとめる。	吉川
補	(造林) 環境に配慮した長伐期 施業林および複層林の 調査検討 (H19 ~ H20)	人工林について、自然環境に配慮した施業として長伐 期施業林および複層林が考えられるが、到達目標とする 森林の姿についての具体的なモデルを示せていない。こ のため、組織的な普及を図る上からモデル林を設定し、 併せて施業体系も調査検討する。	太田
受 託	(機能保全) 森林吸収源計測事業 (H15 ~ H22)	森林の炭素吸収量算出に必要となる森林関連データに ついて、国際的に認知されうるレベルでの効率的かつ確 実性の高い収集方法を開発し、これに沿って森林の炭素 吸収量を計測する。	小島
単 県	(育種) ウツクシマツ遺伝子保 存に関する研究 (H18 ~ H23)	湖南省に自生する天然記念物のウツクシマツが、松く い虫被害により減少してきているため、遺伝形態の解明 に取り組んできたが、12 年度で見通しがついたことから、 引き続いて松くい虫抵抗性ウツクシマツを作出する。	太田
新 税 対	(機能保全) 森林づくりが琵琶湖に 与える影響調査 (H18 ~ H20)	琵琶湖流域の森林が、琵琶湖に対しどのような水源か ん養機能を有しているか科学的根拠に基づき、定量的に 明らかにする。 また、琵琶湖流域の森林に対し、主伐、間伐、里山整 備などの森林施業を実施することにより、水源かん養機 能がどのように変化するか科学的に予測できるシステム を構築し、いろいろな森林施業を想定したシミュレーシ ョンを実施し、琵琶湖の水環境の面から森林施業を科学 的に評価する。	小島
応	(造林) 環境林植生経年調査 (H18 ~ H21)	人工林を強度間伐により針広混交林へ誘導するために 行われる環境林整備は、本県では新しい取り組みである。 このため、強度間伐実施後の育林木や侵入植生などの生 態系の動態調査を実施し、望ましい環境林整備を提言す る。	吉川

